

日本人においてもHbA_{1c}が高値であると心臓血管病による死亡のリスクが増す

HbA_{1c}と心臓血管病による死亡の関連性は、おもに西洋諸国で報告されており、アジア東部の集団ではHbA_{1c}の測定が心臓血管病のリスクを評価するのに有用であるかは明らかにされていない。

そこで、日本人集団から無作為に抽出した被験者を対象に、大規模コホート試験を実施し、心臓血管病の既往のない7,120人（男性2,962人、女性4,158人；平均年齢52.3歳）を15年間追跡した。糖尿病の治療を受けていなかったり、糖尿病のある被験者の危険率の算出については、統計学的に補正した。

追跡期間中、1,104人が死亡し、そのうち304人が心臓血管病、61人が冠状動脈性心疾患、127人が脳卒中（脳梗塞が78人、脳出血が25人、その他の脳卒中が24人）であった。心臓血管病による死亡の危険率は、HbA_{1c}が6.0 - 6.4%、6.5%以上と高値の被験者では、HbA_{1c}が5.0%以下と低値の被験者と比較して、それぞれ2.18、2.75であった。冠状動脈性心疾患、脳梗塞による死亡とHbA_{1c}にも、同様の関連性がみられた。

したがって、西洋諸国の集団と同様、アジア東部の集団においても、HbA_{1c}が高値であることは、心臓血管病、冠状動脈性心疾患、脳梗塞による死亡のリスクが増すことに関連性があることが示された。

出典：Diabetes Care 2013;36:3759-3765